

【令和5年度高校生によるまちづくり発表会 発表内容】

● 10:30～11:30 ポスター発表



5校27組の生徒がポスターで発表し、生徒同士で意見交換。日頃接点のない生徒同士での交流ができました。また、大学コンソーシアム八王子から東京家政学院大学・多摩美術大学の学生がゲスト参加し、地域活動の成果を披露。高校生と大学生との貴重な交流機会にもなりました。さらに、参加校の探究学習に協力している3つの企業・団体にもポスター発表をしていただき、高校生が地域とのつながりを実感できる機会になりました。

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名	前・後半
子ども・若者	1	翔陽高校	キッズニア (kids near)	子供の居場所がない	前半
	2	翔陽高校	よりよい公園にしよう	全ての子ども・若者が健やかに育つ環境の充実	後半
	3	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクト Bチーム	八王子市でより良い子育てを	前半
	4	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクト Eチーム	八王子市にしかない魅力を市内外の若者に広めるには	後半
	5	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクト Fチーム	八王子市の魅力を認識させるB.O.L UNTEER作戦	前半
	6	南多摩中等教育学校	個人参加	教育機会を平等にするにはどうすればよいか	後半
	7	南多摩中等教育学校	個人参加	若者に環境ボランティアを定着させるには	前半
安心・安全	8	翔陽高校	窃盗減らし隊	生活安全対策の充実	後半
	9	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクト Aチーム	八王子駅周辺の治安を良くするにはどうすればよいか～衛生状態の観点から～	前半
	10	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクト Dチーム	自転車が通りやすい道路づくり～目指せ！自転車事故ゼロの街！～	後半
	11	南多摩中等教育学校	個人参加	自転車の一時停止はどうすれば守られるか	前半
	12	南多摩中等教育学校	3年C組5班	八王子駅を待ち合わせにおいて利便性の良い駅にするにはどうすればよいか？	後半
	13	南多摩中等教育学校	3年C組3班	八王子市における一時停止違反の現状とは。	前半

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名
環境・リサイクル	14	翔陽高校	八王子の緑化	八王子市の緑地化
	15	翔陽高校	新しい八王子のリーダーズ	地球にやさしい循環型社会の形成
	16	翔陽高校	生類憐みの令	緑と多様性
	17	翔陽高校	Three-dimensionals	まだ取り組まれていないCO2削減のための工夫
	18	八王子北高校	八王子北A	服のチカラプロジェクト①
	19	八王子北高校	八王子北B	服のチカラプロジェクト②
	20	南多摩中等教育学校	個人参加	八王子市のごみ減量の取り組みの現状と課題
地域活性化	21	翔陽高校	Let'sラジオ体操	八王子市民の健康と人々のつながり
	22	翔陽高校	みんなの主役	市民の幸せ 八王子活性化大作戦
	23	翔陽高校	パッションフルーツ	13人のパッションフルーツをどうやって知名度を上げるか。
	24	八王子東高校	地域活性化まちづくりプロジェクトCチーム	八王子市を広く知ってもらい、活性化させるにはどうすればよいか？
	25	富士森高校	2組5班	空き家を再利用しよう
	26	富士森高校	6組5班	八王子SHOW店街
	27	富士森高校	8組8班	八王子のお店を紹介しよう

	大学・企業・団体名	備考
A	東京家政学院大学 三澤ゼミナール（食育研究会）	大学コンソーシアム八王子加盟校
B	多摩美術大学 Tama Creative Guild	大学コンソーシアム八王子加盟校
C	京王電鉄株式会社	八王子東高校及び南多摩中等教育学校と連携
D	ボランティア団体 ハッピーステーションきよぴー	八王子北高校と連携
E	まほうのほうき（Yottette）	南多摩中等教育学校と連携

- 13:30~14:15 口頭発表（各会場にて市長・教育長へ発表）
 - A会場：第1セミナー室
 - B会場：イベントホール
- 翔陽高等学校



(1) 発表者名：5-3 (A会場)

発表タイトル：「八王子の農産物を広めよう パッションフルーツ」

- ・「八王子の農産物をどうやったら広められるか？」という問いを立てた
- ・意外性があり、栄養豊富で健康促進効果や、病気の予防効果もあるパッションフルーツに着目
- ・パッションフルーツを八王子の特産物として広めることをきっかけに、八王子の農業の活性化も図りたい
- ・認知度を高めるため、学校給食に食育として取り入れることなどを提案

(2) 発表者名：3-12 (B会場)

発表タイトル：「八王子をより良い街にするために

～情報をつかみやすくするためには～」

- ・市内の「NICU」について調べるも、知りたい情報を見つけられなかった
- ・観光客や引っ越してきたばかりの人もそうなのではないかと感じた
- ・桑都ペイを現在の機能に加えて、緊急時の情報や、イベントのお知らせも配信されるようにし、八王子市の情報をもっと簡単に得る方法を検討
- ・知り得た情報で、市外からの人の流れも増え、経済もまわると考えた
- ・機能を追加した桑都ペイを新たに「桑都ネット」と名付けて、八王子市について知ることができる情報を一つの媒体で見られるようにすることを提案

■八王子北高等学校



(3) 発表者名：個人参加 （A会場）

発表タイトル：「死亡事故の減少」

- ・事故による死亡の減少は、早急な通報と救急車到着までの適切な処置が鍵
- ・しかし、緊急時にはスマホをスムーズに使用できないことがあるため、すぐに救急連絡ができるシステムについて考えた
- ・スマホを読み取り機にタッチするだけで、自動で119番に通報
- ・また、近くにいる人に通報した情報を通知、応急処置方法や近くのAED情報を表示、ボイスレコーダーを起動という機能も想定
- ・読み取り機は、百円で車、バイク、自転車に設置可能
- ・通報の迅速化とともに、人々の助け合いにも貢献するシステムを提案

(4) 発表者名：個人参加 （B会場）

発表タイトル：「八王子祭りをよりよく」

- ・昨年初めて参加した八王子まつりを思う存分楽しめきれなかった
- ・課題解決のために、「一日目も道路を歩行者天国にして、混雑を解消してはどうか。」また、「屋台の出店場所をHPなどに載せ、連日同じ出店場所としてはどうか。」という仮説を立てた
- ・調べていくと公共交通機関や飲食店の営業に支障が出る可能性を知った
- ・学習を通して、少しの疑問で終わらずに、しっかり調べて答えを探すことの大事さ、インターネットの検索でわからないこともあるため、実際に目で見て調査する必要性を学んだ

■八王子東高等学校



- (5) 発表者名：地域活性化まちづくりプロジェクトFチーム（A会場）
発表タイトル：「八王子市の魅力を認識させる B.O.LUNTEER 作戦」
- ・地域のボランティアに参加経験のある高校生は少なく、また、参加動機も受動的である
 - ・一方、ボランティアで「自分にとってプラスになる経験」を得たい人も多くいる
 - ・興味・関心に沿ったマッチングができれば、ボランティアを身近に感じられて参加したくなると考えた
 - ・八王子の魅力を感じられるボランティアを集約したマッチングサイトを提案
 - ・自身でサイト内の情報を集めるため、能動的なボランティアになる
 - ・そして、ボランティアを通して地域の魅力と愛着を感じ、地域活性化にも繋がると考えた
- (6) 発表者名：地域活性化まちづくりプロジェクトAチーム（B会場）
発表タイトル：「八王子駅周辺の治安を良くするにはどうすればよいか
～衛生状態の観点から～」
- ・八王子駅北口における犯罪の認知件数の多さに着目
 - ・同じ繁華街として、ニューヨークの「割れ窓理論」や、吉祥寺の「緑化活動」の先行事例などをもとに、八王子でも緑化活動を取り入れることにより、「ごみを捨てられないまち」となり、犯罪の再発防止につながれると考えた
 - ・商店会や教育機関など、様々な地域住民が連携して、コンテストの実施など共通のイメージをもって取り組めるようにすることを提案
 - ・緑化活動の効果は、犯罪の再発防止にとどまらず、参加者や町全体の意識の向上とつながりづくりにもなると考えた

■ 富士森高等学校



(7) 発表者名：2年B組9班 (A会場)

発表タイトル：「八王子市の英語力を上げるためには？」

- ・グローバル化が進み、英語を使う機会が増えていくと考え、学校の英語教育を充実していくことが大切だと考えた
- ・中学生の英語力が全国トップのさいたま市の英語教育を調査した
- ・結果、英語の授業時間数は全国平均より明らかに多いことがわかった
- ・また、ネイティブの先生を学校に配置し、教員の負担軽減や、生徒のコミュニケーション力向上を図っている
- ・さらに学んだ英語を活用・アウトプットする場として、イングリッシュキャンプ、英語劇、英語ディベートを行っている
- ・英語力を上げるためには、主体的に英語に触れ、楽しみ、使う経験を積むことが大事であると考えた

(8) 発表者名：2-2 1班 (B会場)

発表タイトル：「原っぱ改造計画」

- ・八王子市をグローバルで多様性にあふれた、住みやすい地域にしたい、ユニバーサルデザインを取り入れること考えた
- ・その中でもインクルーシブ公園に着目し、作ることを提案
- ・市役所庁舎前の浅川河川敷広場を、設置場所に想定
- ・誰もが公平にアクセスできるアクセシビリティ、誰もが好きな遊びを見つけられる選択肢、誰もが対等に遊びに参加できるインクルージョン、誰もが重大な危険にさらされない安全性、誰もがわくわくしながら自らの世界を広げられる楽しさという5つのポイントが見つかった
- ・インクルーシブ公園に設置されている遊具は高額であることがわかった
- ・インクルーシブ公園をつくることで、原っぱに人が集まるようになると考えた

■南多摩中等教育学校



(9) 発表者名：グローバル問題研究会 (A会場)

発表タイトル：「古民家の観光資源としての活用」

- ・八王子市基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」では、地域ぐるみの観光活動の重要性が掲げられている
- ・近年、自然の中での宿泊体験や、その地元ならではの産物や要素を感じられる旅行体験の需要が高まっている
- ・古民家を宿泊に活用することを提案
- ・古民家には、ホテルとの差別化が図れる、都心にはない自然に囲まれた演出が可能といった利点がある
- ・また、八王子には修繕がほとんど必要ない空き家が多くある
- ・さらに、八王子の特徴として、都市からの交通の便が良く、自然も豊かであることが挙げられる
- ・このような八王子市においては、古民家を活かした観光を展開することができる考えた

(10) 発表者名：チーム“もあもあ” (B会場)

発表タイトル：「学生と地域の間を作る環境づくり提案」

- ・「地域の良さを知ってほしい」、「学生の居場所がほしい」という思いがあり、昨年の高校生によるまちづくり提案発表会にて「空き店舗を活用したコワーキングスペース もあもあ」のポスター発表をした
- ・それに興味を持ってくれた京王電鉄と連携して、実際に企画・運営した
- ・八王子産パッションフルーツのジュースなどを販売する「チャレンジショップ」と、一人で集中できるスペースと、話し合いができるスペースに分けた「コワーキングスペース」を4日間実施
- ・「もあもあ」の実践や、来場した高校生へのアンケートから、今後の展望が見えた
- ・今後は、地域のお店に場所を提供していただき、学生がそこを利用し、学生が地域を知るというサイクルにすると地域と学生がつながる八王子になるのではと考えた

●14：35～15：40 クローズドセッション



各会場で口頭発表を行った代表生徒が市長・教育長とともに登壇し、発表内容の振り返りや、発表したテーマを探究したきっかけや探究活動で苦労したことなどについて意見交換を行いました。そして、それぞれの会場の発表を聴講していた市長・教育長からの総評が行われました。

後半は市長・教育長から代表生徒への質疑応答が行われ、「地域にどんな人と「交流」できる、どのような「活動」があつたらいいか」という質問に対しては「子ども食堂のような子どもから高齢者までが交流できる、支えあえる活動」や「未来も大事だが、過去も同じように大事だと考えるため、高齢者と交流できる地域の歴史の継承活動」などといった意見が出され、また、「今後、探究したいこと」という質問に対しては「今回は八王子をテーマに探究したが、今後は自分の目指している職業のことなど、自分の将来に関することを探究してみたい」といった回答がありました。高校生の思いが市長・教育長に直接伝わる貴重な機会となりました。